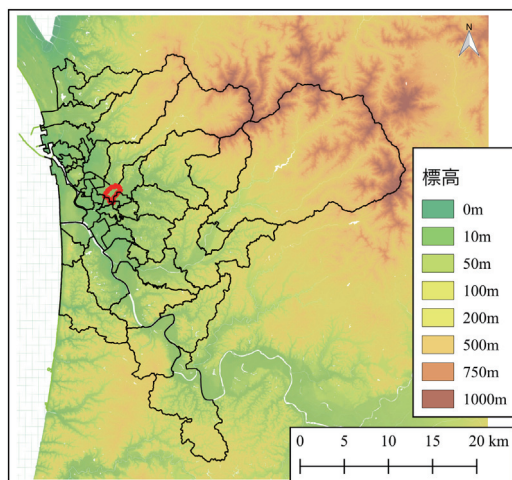


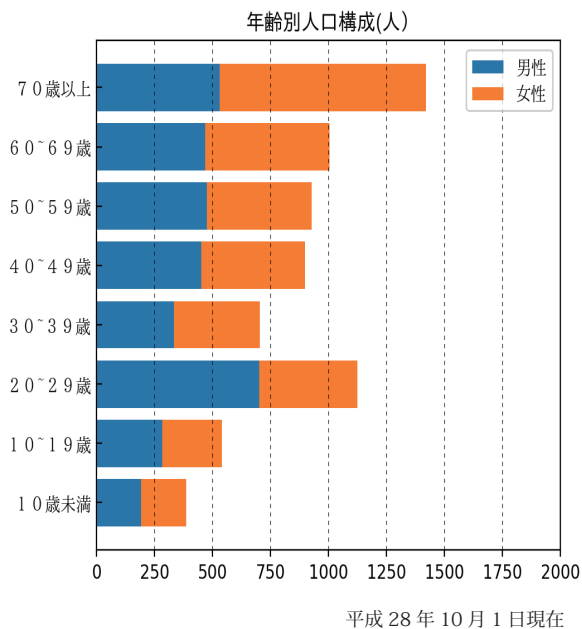
20：明德小学校区

位置図



1 居住者の現況

人口	6,995 人
世帯数	4,123 世帯
65 歳以上人口	1,923 人
10 歳未満人口	385 人



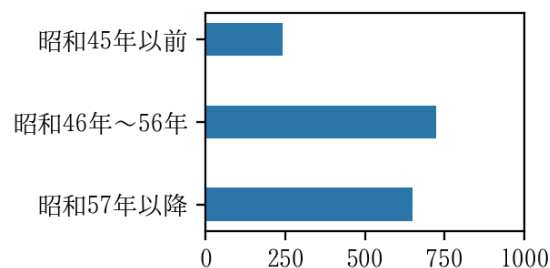
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	1615
非木造建物	383

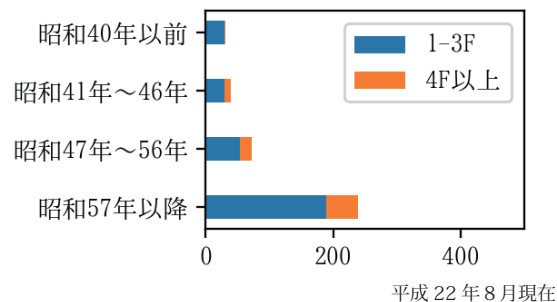
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	649
昭和46年～56年	724
昭和45年以前	242



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	189	51
昭和47年～56年	54	18
昭和41年～46年	29	11
昭和40年以前	30	1



自然的・社会的基本指標

JR 秋田駅を含む秋田市の中心部東側に位置する。地形は、千秋公園の周辺、手形山周辺を除き比較的平坦で、南部には軟質な地盤の分布がみられる。学校区内には教育・医療機関が多い。千秋公園の周辺をはじめ急傾斜地等の危険区域が多数ある。20 歳代～50 歳代の占める割合が高く、とくに 20 歳代男性の構成比率が高い。65 歳以上の高齢者層は全体の 28% を占める。非木造建物が多い。昭和 57 年以降の建築物は全体の 45% である。

3 自然災害に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 洪水

指定河川	雄物川		
浸水面積 (%)	5.1		
最大浸水深 (m)	ランク 4		

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	12	千秋公園、千秋中島、千秋北の丸、矢留町、千秋城下町、千秋公園、千秋久保田、下中城、大沢 他
土石流危険渓流	2	蛇野沢、大沢
地すべり危険箇所	1	北の丸
なだれ危険箇所	8	千秋公園、千秋北の丸、大沢、蛇野、推子 他

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	12	千秋中島、千秋公園、矢留町、千秋久保田、下中城 他
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震 (どこにでも起こりうる直下の地震: M6.9)

平均震度	震度 6 弱	
(計測震度)	(5.90)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	40	
液状化危険度ランク	5	
建物全壊率 (%)	7.2	

* 津波 (秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合)

浸水面積 (%)	(該当なし)
最大浸水深 (m)	(該当なし)

4 災害時要配慮者に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 要支援者関連施設 (収容施設のみ)

種別	施設数
高齢者支援	2
婦人幼児支援	1
障がい者等支援	2

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	7
こども園	0
幼稚園	0

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	3

■ 学校等

種別	施設数
小学校	1
中学校	1
高等学校	2
大学・短大・高専	1
養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 消防関連施設

消火栓数 (箇所)	64
防火水槽 (箇所)	9
消防車台数 (台)	6
消防ポンプ数 (台)	5
消防団員数 (人)	111

■ 避難所/避難場所 (別紙参照)

災害種別	施設数
洪水	6
土砂災害	3
地震	6
津波	0
福祉避難所	0
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	城東消防署
管轄警察署	秋田中央警察署
病院・医院数 (歯科を除く)	11
最寄りの救急告示病院	秋田県立 脳血管研究センター
自主防災組織数	12

自然災害時の危険要素

雄物川の氾濫により学校区の南部 (中通地区の一部) で 1m 未満の浸水が想定されている。

千秋公園周辺および手形山付近に土砂災害の危険性が指摘されており、警戒区域等として 12 箇所 (急傾斜 12 箇所) が指定を受けている。

地震動は、千秋公園および手形山付近が駅東部等と比較すると揺れにくい。液状化が発生する危険性は高い。津波による浸水は想定されていない。

防災上の課題と対策

明德小学校区は、秋田市の中心に位置し、千秋公園をはじめ公園や秋田大学など教育機関があることから比較的空地・緑地が多い。これらの空地・緑地は、災害時の避難場所となるほか、火災発生時の延焼防止効果も期待できる。病院も多数あり、防災関係施設は充実している。

指定避難所の収容可能人数は学校区内人口の約 14% 程度で

ある。加えて学校区内には JR 秋田駅があり、また事業所等も多いことから、災害発生時には多くの非居住者が一時避難者として滞留することが考えられる。このような非居住者の避難方法や帰宅方法についても、地域を含めた検討がなされる必要がある。

学校区内には軟弱な地盤が分布しており液状化の危険性が

あるとともに、がけ崩れの危険箇所が多数あり、避難路についてはこのような危険要素に配慮した避難計画を町内会や事業所で立案するなど平時からの備えが必要である。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ/ 土石流	地震	津波	大規模火災	
明德地区 コミュニティセンター	○	○	○	○	x	x	102 人
秋田東中学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	4,120 人
秋田東中学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	591 人
明德小学校グラウンド	x	○	x	○	x	x	5,890 人
明德小学校（体育館）	○	○	x	○	x	x	341 人
千秋公園	x	○	x	○	x	○	51,000 人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
(該当なし)		

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
(該当なし)			

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	

